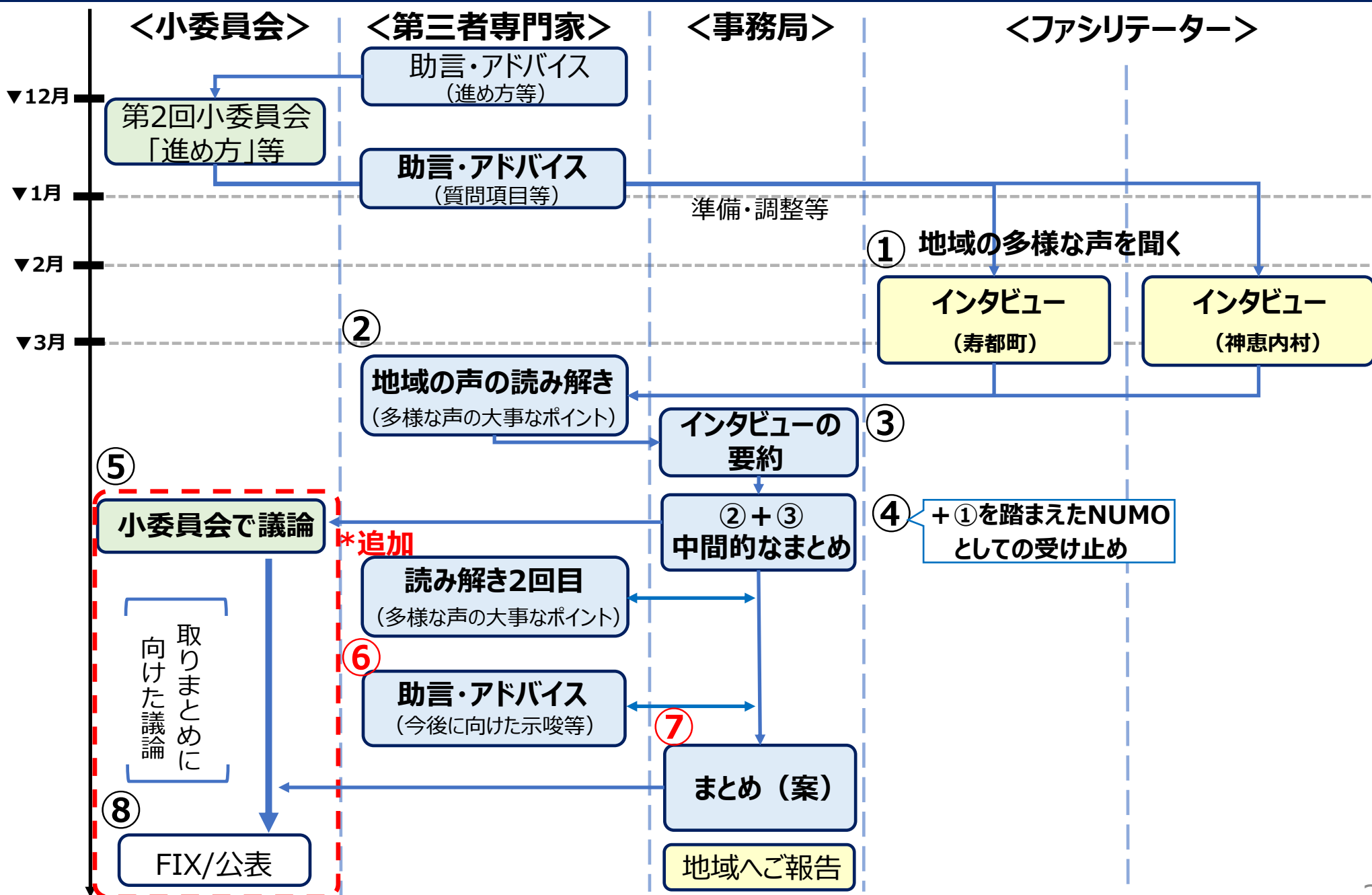


地域対話の基本的な検討に向けた留意事項 「まとめ（案）」について

2024年6月17日

原子力発電環境整備機構

「対話の場」振り返りのプロセス



【前回未回答】

- ① 地域で広くアンケートを実施した上で、インタビューを受けてくれる人を募る方法を提案したが検討状況は。また、今後は実施する可能性はあるか。
- ② 寿都町の対話の場において、一部のテーマが取り上げられなかったこと、慎重な意見を持つ専門家の意見を聞きたいという声があったにもかかわらず、実現できていない理由。
- ③ 寿都町のインタビュー対象者において「旧会員・退会会員」で引き受けてくださったのは、7人のうち1人のみ。NUMOとして、その理由や背景等をどのように考えているか。
- ④ 逐語記録の読み解きは、客観性という観点では陪席されなかった回を見ていただく方がよかったのではないか。
1つの聞き取りに対し、一人の読み解きとなっている。正確さ向上のためにできるだけ多くの専門家による読み解きを実施すべき。

○できたことも

1. どういうところがうまくいったか、何を学べたか、やってよかったところも示してほしい
2. うまくいったところもあると思うので、両論整理してほしい
3. 今回のインタビュー結果に振り回されずにまとめてほしい

○課題ベースで

1. 肯定的な評価ではなく、何が課題かを整理して、課題にハイライトをあてたまとめに
2. 疑問点や提案等から意見概要を抽出すべき

○次の地点に生かす

1. 報告書作成の前提は要確認（これを見て調査にトライしたくなる位のまとめ方を）
2. 今後複数の地域で展開することにつなげることができるようなまとめ方
3. 玄海町など今後の場の制度設計にどう生かしていくかの視点が重要

○インタビュー記録

1. 報告書にはインタビューをした51名の選出方法、アプローチ人数等、経緯を記載してほしい

○制度設計、形式の多様性

1. 参加者の公募はいろいろ（ミニ・パブリックス等）あり、検討すべき
2. 第三者機関の活用についてはこの委員会でも再三指摘している、検討すべき
3. 代表性という意味では、ミニ・パブリックスのような方法も検討すべき
4. NUMOが前提で場を設計することになっている、あり方は多様であってよい
5. 中間まとめの報告を聞いた感想として「対話の場」の制度設計の検討が必要
6. 目的との関連における参加者の選定方法

○留意事項を超えた骨格、ひながた

1. 報告書は留意事項だけでなく、踏み込んで具体策の提案も含めてほしい
2. まとめ方は「骨子」＋「地域特性」→展開できるもの

○海外との比較、その他

1. 第三者専門家に陪席回の読み解きを依頼したことは、客観性が確保できていなかったのではないか
2. 可能なら他国の事例との比較で、国際的なプラクティスのなかでどう位置付けらるか
3. 拙速に次回でまとめるべきではない、次回までの間に真相究明と対応策の提示を

第3回小委員会以降の取組み

- 第3回小委員会でのご意見を踏まえて「地域対話の基本的な検討に向けた留意事項（案）」（以下、まとめ（案））のとりまとめまで、事務局は下記の取組みを実施。

＜第3回小委員会以降の取組み＞

- ① **第三者専門家による2回目の逐語記録読み解きを依頼**（p.25以下赤字参照）
前回実施分とすべて異なる回の逐語記録を配分し、複数の専門家による読み解きを実施。
- ② **読み解き2回目分を含めて、再度地域の多様な声から課題を抽出**（p.14以下参照）
2回目の読み解き分を要約するとともに、前回分からも再度課題ベースでの要約を実施。
- ③ **第三者専門家7名の面会を通じた助言・アドバイスを収受**（p.7以下参照）
「まとめ（案）」に関する助言・アドバイスを得るため事務局がヒアリングを実施。
- ④ **課題ベースでの留意事項を整理した「まとめ（案）」をとりまとめ**（資料7参照）
抽出した課題、第三者専門家の助言・アドバイスを踏まえ事務局案を整理。
- ⑤ **第3回小委高野委員「意見書」に関する対応**（資料5参照）
「意見書」の項目に関して経緯を確認。

「まとめ（案）」の構成や考え方

項目	内容
考え方	・ <u>対話の場の設置の際に、検討段階から留意すべき事項を整理。</u> ・ 寿都町、神恵内村のインタビューから見てきた課題ベースでのまとめ。
想定される読み手	・ 新たに文献調査を実施する地域での場の設置を検討する自治体担当者等。 （本「まとめ（案）」を価値共有し、設置準備までNUMOが伴走）
得られた知見	・ インタビューで頂いた声を基に<u>＜得られた知見＞</u>として、主要な9項目（資料7 3.2参照）を整理。
留意事項	・ 設置に向けた＜3つのステップ＞ 場のデザイン→準備→運営・支援に向けた検討段階ごとの各項目に対し、ガイドとなる＜検討の進め方＞を記載。 ・ それらの<u>各項目ごとに、3～5点の＜留意事項＞</u>を整理。
新たな提案	・ 国の基本方針における対話を行う場の位置づけを基に、文献調査段階における「<u>対話の場の目的</u>」「<u>対話の必要性</u>」「<u>誰と誰の対話なのか</u>」を新たに明示。 ・ 検討の際のたたき台となる<u>＜3タイプのひな形＞</u>を提案。
とりまとめ	・ <u>留意事項を集約した「本体（まとめ（案）」</u>＋別冊「<u>資料編</u>」

- インタビューから見えてきた課題や事務局作成の「まとめ（案）」に対して、7名の第三者専門家から、それぞれの専門的見地から助言・アドバイスを頂いた。

※敬称略

○ 青木将幸（青木将幸ファシリテーター事務局）

- ・ 中立性はNUMOが担う限り難しい課題であり、それよりも留意すべきなのは、信頼感、住民の納得度を高めること。中立性を仕組みで担保したい場合は、NUMOは意思決定から切り離し、情報提供役に徹すればよい。
- ・ 参加者が住民の1%だとした場合、99%にどう広げていくかが重要。1%の議論をどのように広げられるかも設計に入れていくことが「場のデザイン」。参加できない人の声をいかにして聴くかも重要であり、住民の方々が楽しく参加する仕掛けやどうしても意見を言いたいひとの参加席を設ける等、工夫しながら開かれた場としていくことが大切。
- ・ どのひな形でもよいが、目的はトータルでどれだけ住民の方々の納得感が得られるかであり、そのための場のデザイン、参加者の構成、公開制等が問われる。

○ 大島堅一（龍谷大学政策学部教授）

- ・ 国の基本方針における対話の場の位置づけは、非常に重要である。まとめの冒頭で紹介すべき。事業への住民意見の反映、地域の主体的な合意形成、多様な住民の参画、専門家の多様な意見などが、場の目的のクライテリアになるのではないかな。
- ・ NUMOが提供してきた情報は多岐にわたっていたが、事業者が伝えたいことだけが記載され、多様性があるとは言えない。今後は資料を両論同じ分量で併記にすると情報の見え方が変わってくるので検討してほしい。
- ・ 対話の場は基本となるひな形を作らずに、各ひな形を並列に扱ってはどうか。ステークホルダー型を基本とすることは、これまでの反省を踏まえていない。
- ・ ファシリテーターの選定は重要。さばくのではなく、あくまで中立的に、うまく意見を引き出せる人を選ぶべき。リスクコミュニケーションや原子力の専門家ではなく、あえて分野外の専門家が適任かもしれない。

○ 崎田裕子（ジャーナリスト/環境カウンセラー）

- 対話の場を開く際の配慮は、次世代を巻き込む、周辺自治体に伝える、地域の将来への関心の高まりをどう支える、という3点にある。
- 寿都、神恵内に対話の場の個性が違うことに触れていくことが重要。現在のまとめでは、両者を丸めた記載になっておりやや現実味がない。一方の良し悪しではなく、設置や運営に関する個性を示した上で、その違いが結果としてどのような違いになったのか、そのようなまとめとしてほしい。
- 本まとめにおいて、今後の文献調査地域だけでなく、概要調査の際の対話活動に向けて、どう生かしていくかを考える視点を入れることも重要。
住民の方々だけでなく、NUMO含めすべての関係者が学び合える場づくりを。
- NUMOの対話活動で重視して欲しいのは賛成・慎重の方々だけでなく中間の方々。対話を重ねていかにこの方々の信頼を得ていけるかが重要。

○ 鈴木達治郎（長崎大学核兵器廃絶研究センター教授）

- 国の基本方針の記載と同様、対話の場において、参加者の意見を聞くだけでなく、それを事業に反映するという目的を掲げれば、参加者の意識は変わるのではないか。結論ありきのアリバイ作りと思われたいためにも、反映する仕組みを定義することが重要。
- 概要調査に向けて、県レベルでも対話の場が必要。県が主催し、概要調査の受入れの是非を議論する場があってもよい。
- 自治体が自分達で考えるための場として、場をデザイン・運営できるように支援する枠組みを設けてはどうか。交付金の使い道に、対話の場の予算に使えるようにしたり、都道府県に対しては対話の場設置のための新たに支援金制度を新設する等。その場合でも、対話の場の主体は都道府県・自治体で、NUMOや政府は運営に関与しないことで、対話の場が市民のためであることを担保することが重要。

○ 竹内真司（日本大学文理学部地球科学科教授）

- 3.3「対話の場のデザイン」の留意事項の②「合意形成を目的にしていないか」は国の基本方針と整合していない。そもそもここでの合意とは何かを明確にすることが必要ではないか。重要なことはいかに納得をしていただけるかということではないか。
- 3.4「基本となるひな形」は1つの形にこだわらなくてもよいのではないか。内容によって、開催方式やメンバーを変える方法も考えられるのではないか。理想的にはタイプCの自由参加形式が前向きで自由闊達な意見交換ができてよいのではないか。
- 対話の場の結果の周知は、中身を理解してもらうことが目的なのか、周知を重ねることで信頼してもらうことが目的なのか、目的が何か、に応じて周知の仕方を工夫することが重要ではないか。

○ 徳田太郎（NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー）

- 対話の場は目的も重要ではあるが、それ以上に大切なのは、対話とは何かということに関係者および参加者間で明確にすること。そこが曖昧になっている。
- 全体を通じて、議論という言葉があまり意識されずに用いられていると感じる。議論という語が相応しいのは、会則やルールなど、明確な決定事項を伴う部分。それ以外の箇所は、意見交換や対話などの表現が望ましい。
- ステークホルダー型という表現はいかがか。地層処分事業の利害関係者には、国や規制庁、広域自治体等も含まれる。地域の団体の代表等のみをステークホルダーと呼ぶことは違和感があるため、指名型や推薦型としてはどうか。
- 「地域のみなさまとのつながり」は、報告等の「出力」だけでなく、意見公募などの「入力」もあり得るのではないか。

○ 松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

- 対話の場、文献調査は、地層処分に関しての社会的学習プロセスである。対話の場は、地域の人々だけが学ぶのではなく、期間中を通じて国・NUMO・専門家も学び合うことが極めて重要。
- 対話の場の参加により、新しい知識を得たり、人と話をして学んでいく中で自分自身も変わっていくのではないか。人間にとって学ぶことは快感。その領域まで達すると、参加者する側も面白く感じるのではないか。
- ひな形を示すことも重要であるが、地域に開かれた場であるかどうか非常に重要。寿都や神恵内のようなクローズな形では広がりには欠けるのでは。

<章立て（案）>

1. はじめに

2. 対話の場とは

2.1. 設置根拠

2.2. 設置の目的や対話の必要性

（１）対話の場の目的

（２）対話の必要性

（３）誰と誰の対話なのか

3. 寿都町、神恵内村の振り返りから

3.1. 「対話の場」の実績

3.2. 得られた知見

4. 対話の場の設置に向けて

4.1. 検討の３つのステップ

4.2. 対話の場のデザイン

（１）場の目的と形式

（２）参加者の人数・構成・選び方

（３）場の設置者と事務局

4.3 基本となるひな形

タイプＡ：組織・団体の代表と住民公募で構成するハイブリッド型

タイプＢ：住民参加提言を目指す無作為抽出型

タイプＣ：誰でも参加できる自由参加型

5. 対話の場の準備と運営

（１）議題の決定と情報提供

（２）場の会則・対話のルール

（３）場の情報公開

（４）会場設計・進行役・話しやすい環境づくり

（５）開催頻度・期間

6. 地域の皆さまとのつながり

（１）意見交換の結果のお伝え

（２）視察・見学、イベント交流の場

（３）勉強会・公開シンポジウムの開催

7. おわりに

2.2.設置の目的や対話の必要性

- 第三者専門家の助言・アドバイスを踏まえ、設置根拠である国の基本方針を基に検討の際の指針となる＜設置の目的＞やそもそも＜対話とは＞ **なにか**を明示。

＜設置の目的（案）＞

○対話の場は、地域のお一人ひとりが自分の意見にたどり着いていただくために、できるだけ住民の皆さんの納得感が得られる方法にて対話を重ね、場に参加していない地域の皆さまにも知って頂き、考えて頂けるよう地域の意思を尊重しながら取組むものです。

＜対話とは（案）＞

○対話は、結論を出すことが求められる議論とは異なり、専門家との質疑や意見交換、あるいは地域や家庭等での様々なやりとりを通じて、価値観の異なる他者の意見にも触れながら、気づきや発見を交えて自らの考えを深めていくためのものです。NUMOと住民、専門家と住民、住民の方々同士等の様々なやりとりを指します。

参考：国の基本方針における対話の場の位置づけ

○ 概要調査地区等の選定に係る関係住民の理解の増進のための施策に関する事項

（中略）概要調査地区等の選定が円滑に行われるためには、関係住民に継続的かつ適切に情報提供が行われ、関係住民の意見が最終処分事業に反映されることを通じ、地域の主体的な合意形成が図られることが重要である。この観点から、概要調査地区等の選定に向けた調査の段階から、多様な関係住民が参画し、最終処分事業について、情報を継続的に共有し、対話を行う場（以下「対話の場」という。）が設けられ、積極的な活動が行われることが望ましい。このため、機構及び国は、関係住民及び関係地方公共団体に対し、その有用性や活動内容の可能性を具体的に示す等により、対話の場が円滑に設置されるよう努めるものとする。また、機構及び国は、専門家等からの多様な意見や情報の提供の確保を含め、その活動を継続的かつ適切に支援するものとする。

「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」（令和5年4月28日閣議決定）

<https://www.meti.go.jp/press/2023/04/20230428007/20230428007-2.pdf>

3.2.得られた知見

- 寿都町、神恵内村のインタビューから見えてきた課題と基に、地域対話の基本的な検討に資する実践から得られた知見についてのポイントを9項目別に整理。（資料7 3.2参照）

＜得られた知見9項目＞

- ① 対話の場の設置と住民の方々の理解や納得感の得られるプロセス
- ② 会則・ルールの設定及び目的の明確化と共有
- ③ ファシリテーターによる進行と運営の中立性の確保
- ④ プライバシーに配慮した話やすい環境づくりと場の透明性の両立
- ⑤ 多面的な情報提供
- ⑥ 公募や傍聴による多様な住民の方々の参加機会
- ⑦ 分かりやすい表現と周辺自治体を含む場に参加していない方々への周知や広がり
- ⑧ 一般住民の方の勉強や視察・見学の機会の拡大
- ⑨ 国・自治体・NUMOの積極的な関与

4.3.基本となるひな形

- 場の設置の際の検討のためのひな形として3つのタイプを例示。
- いずれかの選択ではなく、複数組み合わせる等、地域の特性や意向に合わせて設置。

ひな形	【タイプA】 組織団体の代表と住民公募で 構成するハイブリッド型	【タイプB】 住民参加提言を目指す 無作為抽出型	【タイプC】 誰でも参加できる 自由参加型
目的	▶ 地域の主な組織・団体の代表の立場の方々と公募の住民が集まって意見交換を行う場	▶ 地域の縮図を構成し多世代の一般住民の方々が集まって意見交換を行う場	▶ 地域住民なら誰でも自由に参加ができ勉強や意見交換ができる場
参加者	組織・団体・地区等の代表 ・公募による住民の方々	無作為抽出	自由参加
人口規模	母集団が比較的小さな規模の自治体等	母集団が比較的大きな規模の自治体等	特になし
場所数	地域に1箇所		地域内で複数箇所
議題の決定	場の参加者による運営委員会方式		開催ごとに相談
設置者	関係住民及び関係自治体等（または実行委員会）		
事務局	NUMOまたは第三者機関等		主催団体、自治体、NUMO、または第三者機関等

- 「留意事項」は、インタビューの中間的なまとめ（第3回小委）並びに読み解き2回目で抽出した課題を基に、第三者専門家の助言・アドバイスを踏まえて事務局案として整理。

4.2（1）場の目的と形式

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. 住民の一部、賛成するひとが参加する場に見える（開かれた場づくり）
2. 勉強会や説明の場だと捉えられている（場の目的の明確化）
3. 対話の場に関心ないひとが多い（開かれた場づくり）
4. 地域の代表が事業の進展の是非を議論する場だと捉え方（場の目的の明確化）
5. 事業を推進するための語りの場（場の目的の明確化）
6. 開かれた場にしない限り、議論内容は伝わらない（開かれた場づくり）
7. 議論の結果を外で話してはダメと思っていた（目的の明確化）

読み解き2回目

1. 事務局はどこでもよいが、もっと開かれた場にすべき（開かれた場づくり）

留意事項

① 地域にとって開かれた場になっているか

- ・ 対話の場は、住民の方々に知られていない、あるいは関心を持たれていない場とならないよう留意が必要です。

② 目的は参加者と共有できるものか

- ・ 話の場の目的は、参加者や地域の方々にも分かりやすいものに明確化するとともに、場の運営を進めていく間にも忘れられることのないよう留意が必要です。

③ 参加者の主体性を尊重しているか

- ・ 対話の場の主人公は、あくまで参加者である地域の方々であることに留意が必要です。

4.2 (2) 参加者の人数・構成・選び方

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. 産業団体の代表は意見しにくいのでは（参加のトレードオフ）
2. 参加者の賛否の構成が偏り（意見傾向に配慮した参加者の選定）
3. 若いひと高校生なども入ってよい（多様な世代の参加）
4. 参加者の大半が議員、団体に偏りすぎ（参加者の多様性）
5. 女性や反対意見の参加者を増やす（参加者の多様性）
6. 意見バランスに配慮した世代ごとの参加者構成（参加者の多様性）
7. 町が選んだ参加者は受け入れにくい（納得感のある参加者の選考方法）
8. 公開の場で意見が言えるひとを募る方法（参加者選考の工夫）
9. 団体の代表者の意見は団体全員の意見ではない（参加者選考の工夫）
10. 反対意見を堂々と言えるひとを公募で集める（参加者選考の工夫）
11. 地区ごとに数を増やす（参加者選考の工夫）
12. 地域リーダーや男性が議論する場で、反対意見の人は参加していない（参加者の選考方法）
13. 役場の若手職員や学校の先生、次世代の若者の参加（参加者の多様性）
14. 参加者に年配の男性しかいない印象（参加者選考の工夫）
15. 参加者は賛成・中立・反対意見等バランスに配慮する方法（参加者の多様性）
16. 説明の場であれば対話の標題に違和感（参加者との目的の共有不足）
17. 組織のひとは持ち帰って組織内で情報提供できるとよい（目的の明確化）
18. 自由闊達な雰囲気がない（自由で率直な意見交換の場）

読み解き2回目

1. 公募を基本とすべき（納得感のある参加者の選定方法）
2. 参加者は地域により多様で、2町村の例が必ずしも他地域の参考にはならない（地域の特性を踏まえた場のあり方）
3. 高齢者が多く、人数も少ない限られた場で話しをしても、町民には広がらない（参加者選考の工夫）
4. 関心のある人にはどんどん参加してもらうとよい（参加者選考の工夫）
5. 文献調査開始前に勉強する場が必要、地域の分断が始まってからの対話は難しい（場の目的の明確化）
6. 職業上の立場、自分の考えを述べにくい（参加のトレードオフ）
7. 指名されて参加している立場のため、本音が言いづらかった（参加のトレードオフ）
8. 意見が反映される場だとよかった（場の目的の明確化）

留意事項

① 多様性の観点を考慮に入れているか

- ・ 選ばれた参加者を募る際には、偏りのある構成にならないよう留意が必要です。

② 参加のトレードオフの問題を考慮に入れているか

- ・ 参加者の選び方には、それぞれにトレードオフの問題があることに留意が必要です。

③ 参加募集時に場の目的や概要がわかるようになっているか

- ・ 対話の場の参加者を募る際には、場の目的や下記のような概要を適切にお伝えして、納得のうえ参加していただけるよう留意が必要です。

4.2 (3) 場の設置者と事務局

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 慎重な立場では経産省NUMO首長がいる場では話しづらい（中立公正、第三者性）2. 町ももう少し関与があってもよい（自治体の関与）3. 広報などの面で役場の関与の必要性（自治体の関与）4. 町も説明役や人選の観点で関与必要（自治体の関与）5. NUMOは電力会社に見えてしまう（中立公正、第三者性）6. NUMOが事務局でよい、文献調査中は第三者機関は不要（NUMOの関与）7. 海外のように事務局を第三者機関が担う方法（第三者性）8. 新たな第三者が地域に入るとは不安（運営の透明性） | <ol style="list-style-type: none">9. 第三者機関が運営し、NUMOが情報提供者である方が透明性が高い（透明性、第三者性）10. 町とNUMOの運営では、中立は保てない（中立公正、第三者性）11. 国の関与は伝わっていない、積極的に関与すべき（国の関与）12. 賛成派の意見は実現されやすい（中立公正、透明性）13. 人選等、さまざまなプロセスが非公開であり、閉鎖的な説得の場（透明性）14. 役場も議論に参加すべき（自治体の関与） |
|--|--|

読み解き2回目

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 事務局がNUMOのため一定の方向性（中立公正）2. 他国同様に国主導で進めていっては（国の関与）3. 町が設置者であることの違和感（自治体の関与）4. 自治体が主催した方が公の場であり参加しやすい（自治体の関与）5. NUMOは両論併記の情報提供に徹し、説明や運営は行政が行うべき（多面的な情報提供、自治体・国の関与） | <ol style="list-style-type: none">6. 意見の反映や運営が適切でない（中立公正）7. 町とNUMOの考えが見えない（自治体、NUMOの関与）8. 国の関与のあり方、第三者機関の運営はこれまで説明されていない（国の関与ほか） |
|--|--|

留意事項

① 場の設置の際に大切な5ポイントに配慮されているか

- ・ 対話の場の設置者や事務局は、「場の設置の際に大切な5ポイント」に配慮しながら検討を進めていくことに留意が必要です。

② 運営の透明性が確保されているか

- ・ 議題の決定や運営に必要な決め事等、対話の場の運営に際しては参加者の納得感が得られる透明性のある運営であることに留意が必要です。

5 (1) 議題の決定と情報提供

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 議題をアンケートして取り上げ方を工夫（議題の決定方法） 2. 参加者が希望する議題が実現していない（議題の決定方法） 3. 説明は最後に安全という落ちがある（多面的な情報提供） 4. 賛成反対両有識者の意見を聞く場（多面的な情報提供） 5. 賛否の両方の考え方を示す（多面的な情報提供） 6. 中立な立場の専門家意見も聞きたかった（多面的な情報提供） 7. NUMOからマイナス情報は出てこない（多面的な情報提供） 8. 質問の回答の根拠がわからないことあり（わかりやすさへの工夫） 9. 慎重派の有識者の対論が実現していない（多面的な情報提供） 10. 第三者機関が説明してくれる方法（情報提供の第三者性） 11. 説明が安全神話的で疑問が残る（情報提供の第三者性） 12. 地元の地名地理に寄せた説明（わかりやすさへの工夫） 13. まったく知らない人に話しても理解されない（場以外での対話の広がり） | <ol style="list-style-type: none"> 14. 家庭内では話す機会が少ない（場以外での対話の広がり） 15. 参加者から議論内容を聞いたことがない（場以外での対話の広がり） 16. 賛否のある事業理解を地域で行うのは難しい（わかりやすさへの工夫） 17. 科学的な説明も中立的な機関が必要（多面的な情報提供） 18. まちづくり議論は地層処分の議論と切り離すべき（まちづくり議題の是非） 19. まちづくりを議題とすることは賛否分かれる（まちづくり議題の是非） 20. まちづくり議論は尚早、現実性に乏しい（まちづくり議題の是非） 21. 内容が難しく議論の結果が伝わっていない（わかりやすさへの工夫） 22. 配布される資料が難しく説明なしには理解できない（わかりやすさへの工夫） |
|---|---|

読み解き2回目

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域特有の事情等を理解するためのより具体的な議論の必要性（わかりやすさへの工夫） 2. NUMOによる一方的な説明への違和感（多面的な情報提供） 3. 議論の内容を他者に説明することの難しさ（場以外での対話の広がり） | <ol style="list-style-type: none"> 4. 提供される情報が選別されることへの懸念（多面的な情報提供） 5. 概要調査を前提としたような表現方法への懸念（多面的な情報提供） 6. チラシを読んでも、背景がつかみにくい（わかりやすさへの工夫） |
|---|---|

留意事項

- ① **住民の方々の不安や懸念に寄り添っているか**
 - ・ 地層処分事業や文献調査には、難解な用語や説明内容も多いと感じられることから、議題の順番や進め方には十分な留意が必要です。
- ② **議題の決定方法は透明性と納得感が確保されているか**
 - ・ 議題の決定は、参加者の意向を尊重し、かつ透明性や納得感が得られる決め方であることに留意が必要です。
- ③ **提供する情報のバランスは工夫されているか**
 - ・ 情報提供は、事業者だけの一面的な情報提供とならないためのバランスに留意が必要です。
- ④ **まちづくりの議題は参加者の意向を尊重しているか**
 - ・ まちづくりの議題は、対話の場で取り扱うべきか留意が必要です。
- ⑤ **提供する情報は分かりやすく工夫されているか**
 - ・ 対話の場の参加者や住民の方々へ提供する地層処分事業をはじめとする情報は、正確な情報をお伝えしようとするあまり、難解で分かりにくいものにならないよう留意が必要です。

5（2）場の会則・対話のルール

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. グループワークの時間不足（時間配分の検討）
2. 1つではなく複数のテーマから選ぶ方法（柔軟な運営）
3. 会則に縛られず参加者側にも決める権利を（柔軟な運用）
4. テーマごとに参加者を変える方法（テーマごとの柔軟な運用）

読み解き2回目

※該当部分なし

留意事項

- ① **参加者全員の納得感が得られているか**
 - ・ 会則やルールは、参加者全員から納得が得られ、承認を得られるものであることに留意が必要です。
- ② **柔軟性のある運用を考慮しているか**
 - ・ 会則やルールは、場の運営において守るべき指針となるものですが、状況により柔軟に対応していく点にも留意が必要です。

5 (3) 場の情報公開

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 個人の発言が特定されるので名簿は非公開（プライバシー保護） | 8. 傍聴があれば言葉を選ぶ、反対派のヤジなどが心配（公開の範囲） |
| 2. 関心ある町民は公開でよい（公開の範囲） | 9. 議論の結果を公開すべき（情報公開） |
| 3. ライブ配信はSNS拡散など懸念（プライバシー保護） | 10. 地域外に広げると誰が来るかわからない（公開の範囲） |
| 4. 全面公開は個人が特定される懸念、言葉を選ぶ（プライバシー保護） | 11. 周辺市町村に限れば構わない（公開の範囲） |
| 5. 情報公開の面では全国に知ってほしい気持ち（場の公開） | 12. 傍聴が可能であれば参加してみたい（場の公開） |
| 6. 公開すると賛否で意見を切り取られる（公開の範囲） | 13. 近隣町村の方には公開してもよい（場の公開） |
| 7. 交付金などお金に関する議論は非公開（公開の範囲） | 14. 傍聴して発言している人を観察したい（場の公開） |

読み解き2回目

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 名前等も公開できる人は参加し、公募も含めて自由闊達にオープンに議論すべき（場の公開、公開の範囲） | 3. 気軽に参加しにくい事前申し込み制の傍聴の見直し（場の公開） |
| 2. 近隣町村には影響が及ぶ問題であるため、公開してもよい（公開の範囲） | |

留意事項

① 参加者の意志を尊重した場の公開のあり方となっているか

- ・ 場の公開には、様々な考え方があることに留意が必要です。

② 傍聴の許可と範囲は合意が得られているか

- ・ 傍聴も、様々な考え方があることに留意が必要です。

③ 透明性を確保するための情報公開がされているか

- ・ 対話の場の記録や資料は、どなたでもアクセスができる透明性を確保した情報公開を基本とすることに留意が必要です。

5（４）会場設計・進行役・話しやすい環境づくり

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. 全体の場合は話しづらい（話しやすい環境づくり）
2. グループごとの意見の深堀（多様な意見との出会い）
3. 対話の形になってない（話しやすい環境づくり）
4. 勉強目的なら正面に向く形で（会場設計の工夫）
5. 勉強し知識を増やしてから対話形式にすべき（話しやすい環境づくり）
6. スクール対面式で他者の意見は聞いていない（会場設計の工夫）
7. 慎重派は少数で参加がなかった（多様性の観点）
8. 賛否両方のひとを一緒にしても議論にならない（多様な意見との出会い）
9. 地層処分のテーマでは活発に議論できていない（話しやすい環境づくり）
10. 専門的な話になると対話になりにくい（話しやすい環境づくり）

読み解き2回目

1. 投票やアンケート形式による意見出し（多様な意見との出会い）
2. 自身の考えを示し、賛否分かれて議論するのもよい（多様な意見との出会い）
3. 説明する場と対話をする場の切り分け（進行上の工夫）
4. グループワーク形式になって、多様な考えに触れられた（多様な意見との出会い）
5. 小グループや全体での議論であっても、参加者の意見は十分に聞けない（話しやすい環境づくり）
6. ファシリテーターが意見の整理をすることで、直接発言を聞くより薄まってしまうもどかしさ（進行上の工夫）
7. 慎重派の意見が孤立し、賛成派と十分に議論できなかった（多様な意見との出会い、多様性の観点）

留意事項

① 参加者の心理的安全は確保されているか

- ・ 賛否の分れる話題に対して、自分の意見や気持ちを安心して開示できる状態を保つためには、参加者の心理的安全を確保することへの留意が必要です。

② 多様な意見に出会える工夫はされているか

- ・ 対話の場では、参加者間での多様な意見に出会えるよう留意が必要です。

5（5）開催頻度・期間

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. まちづくり議論の結果が政策に反映されない（目標・ゴールの設定）
2. 盛り上がりがしぼみ気味（見通しの提示）
3. 開催頻度はテーマによる（柔軟な運営）
4. どこまで勉強すべきか終わりが見えない（目標・ゴールの設定）
5. 話し合った先にどうしたいのか何のための機会か（目標・ゴールの設定）
6. 仕事終わりの平日夜高頻度は負担（無理のない開催スケジュール）
7. 開催スケジュールが見えづらく予定が立ちにくい（見通しの提示）
8. 週末は行事（無理のない開催スケジュール）
9. 開催間隔が空きすぎると忘れてしまう（柔軟な運営）
10. 開催スケジュールは、参加者や主催者のどちらにバランスをとるか（無理のない開催スケジュール）

読み解き2回目

※該当部分なし

留意事項

① 参加に無理のない開催スケジュールになっているか

- ・ 開催日時は、開催の見通しを持ちながら、過度な負担を強いることのないように一定の間隔を設け、地域の社会活動状況や参加者の意向を尊重しながら設定していくことが必要です。

② スケジュールの見通しを示すことができるか

- ・ 対話の場の運営においては、予め年間プログラム案を作成することで、対話の場の全体像や開催スケジュールの見通しが立ち、参加者側と事務局側の双方に日程調整等のメリットがあります。

③ 期限や場の目標（ゴール）検討ができるか

- ・ 対話の場の運営において、所定のプログラムや目的に達した場合には、いったん散会し、改めて新たな目的や参加者による場づくりを行うケースも検討のうちにしておきます。

6 (1) 意見交換の結果のお伝え

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 住民には理解が広まっていない（効果的なお伝え方法） | 6. 地層処分の名前は知られているが中身は不明（効果的なお伝え方法） |
| 2. 賛否の中間の人が話さない（効果的なお伝え方法） | 7. 参考文献や書籍の情報もチラシにあるとよい（多面的な情報発信） |
| 3. チラシは興味を示さない、読まれない（効果的なお伝え方法） | 8. チラシには賛成・中立・反対等、さまざま意見を載せれば興味が湧く（多面的な情報発信） |
| 4. 新聞折込も効果が不明（効果的なお伝え方法） | 9. 提供する情報の鮮度の低下（多面的な情報発信） |
| 5. 目で読むより耳で聞いたほうがよい（効果的なお伝え方法） | |

読み解き2回目

- | | |
|--|---|
| 1. チラシには両論併記で、NUMOに都合の悪い情報も載せるべき（多面的な情報発信） | 4. ホームページは見る機会が少ない（効果的なお伝え方法） |
| 2. 多くの世代を惹きつけるには、チラシの文字を大きくする、写真を増やす等の工夫が必要（効果的なお伝え方法） | 5. ケーブルテレビは放送されない家庭もあり、防災無線の活用等の周知の工夫が必要（効果的なお伝え方法） |
| 3. ファシリテーショングラフィック等を活用した場の共有（効果的なお伝え方法） | |

留意事項

- ① 情報の受け取り側を考慮した手段やツールを選んでいるか
 - ・ 地域の住民の方々へのお知らせは、受け取り手を考慮した手段やツールを選ぶことに留意が必要です。
- ② 一面的な情報発信になっていないか
 - ・ 意見交換の結果のお知らせの際には、多様な意見を取り上げるよう留意が必要です。

6 (2) 視察・見学、イベント交流の場

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

1. 視察後には関心が高まった（視察と組合せる工夫）
2. 視察・見学は参加者が限られており、もっと広く募るべき（誰でも参加できる仕組み）
3. 賛成・反対の意見の参加者が一緒に視察に行くことが望ましい（多面的に学べる）
4. 視察後のほうが話やすく、賛否関係なく振り返りを行う場が必要（多面的に学べる）
5. 子育て世代でも参加できるスケジュール設定の必要性（誰でも参加できる仕組み）
6. 視察に推進・慎重派の有識者が同行し、話を聞いてみるのはどうか（多面的に学べる）
7. 視察・見学だけでなく、地元の人と意見交換したい（多面的に学べる）

読み解き2回目

1. 視察・見学への若い世代への参加（誰でも参加できる、多面的に学べる）
2. 旅行感覚での視察スケジュールになっていることへの疑念（中立・公正な運営）

留意事項

- ① **希望すれば誰もが参加できる仕組みになっているか**
 - ・ 視察・見学は、希望する地域の住民の方々がどなたでも参加できるよう留意が必要です。
- ② **視察・見学時にも多面的に学べるような配慮がされているか**
 - ・ 地層処分や原子力・エネルギー関連施設への視察・見学の際には、事業者と異なる意見を聴く機会を設ける等、多面的に学べるよう留意が必要です。

6（3）勉強会・公開シンポジウムの開催

課題ベースでの意見抽出（対応する課題）の再整理

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 地区ごとミニ集会や行事を契機とした説明（接触機会の検討）2. 批判的な考えの有識者を招いてほしかったが実現できなかった（意見の多様性）3. 対話の場と勉強会での内容面の格差（情報提供の公平性）4. 町内会単位での勉強会の実施（誰でも参加できる仕組み）5. 高齢者がチラシを読むのは難しく、話し合いの場を持つ方が伝わりやすい（誰でも参加できる仕組み）6. PTA役員会でも情報提供機会がくれた（お知らせ方法の工夫） | <ol style="list-style-type: none">7. ざくばらんに話ができる場が必要（誰でも参加できる仕組み）8. 対話の場以外での情報提供や交流の必要性（誰でも参加できる仕組み）9. 堅い形式ではなく、一般町村民が自由に集まれる形式（誰でも参加できる仕組み）10. 開始から3年が経過し、地域住民の関心が薄れてきている（参加モチベーション）11. 対話の場と異なる場があってもよい（誰でも参加できる仕組み） |
|--|--|

読み解き2回目

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 対話の場を公開し、開催後に感想等を共有できる場の提供（誰でも参加できる仕組み）2. 若い世代をターゲットとした説明会形式でない場の設置（誰でも参加できる仕組み） | <ol style="list-style-type: none">3. NUMO職員と地域との交流機会の増加への期待（NUMOの関与）4. 町民向けで堅苦しい場では駄目（誰でも参加できる仕組み） |
|--|---|

留意事項

① 誰でも参加できる仕組みになっているか

- ・ 勉強会やシンポジウムは、地域の住民の方であればどなたでも参加できる仕組みであることに留意が必要です。

② 意見の多様性に配慮されているか

- ・ 勉強会やシンポジウムでの地層処分事業を中心とした情報提供の際には、事業者からの情報に偏らない配慮が必要です。

【①場づくりについて】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目	Q1.対話の場の目的である「事業への賛否によらず、情報提供や意見交換ができる環境づくり」の状況についてどう思いますか。 Q2.「参加者の皆さんの意向を尊重する」という場づくりの状況について、どう感じますか。
＜寿都町＞ (Q1.) - 言葉に気を使いながらも情報交換や意見交換はできていた - 前半の地層処分テーマの回は率直な意見を言い合った印象は少ない - 発言しても否定はされない環境だった - 賛成反対両方の有識者の意見を聞く場があるとよい - まちづくりの観点をNUMOと一緒に議論したくない - 賛成派の方たちは、文献調査で交付金を頂いて、それでまちづくりをするのだという人が多い - 事業の賛否によらず、情報提供と意見交換ができる環境を作ることは難しい。感情的になる参加者もいて、議論が深まらない状況が続いていた	＜神恵内村＞ (Q1.) - 地層処分への理解は相当深まった - 村の将来についての議論は自治体の政策に反映されるところはまだこれからで難しい - 対話の場で地域の将来の議論をするのは賛成できない - 対話の場を村として位置づけてはいないので政策に反映させる責任はない - 地層処分事業への理解を深めていただく目的は、あまり村民には広まっていない - 理解の前に賛否があり、理解を止めた人に対話の場がきっかけになればよかったがそうならない - 盛り上がりはだんだんしぼんでいる印象 - グループワークは小規模なので意見を言うことができてよかった - いままで横の連携により村の将来を話し合う場がなかったのでよい機会になった - 村の将来のことや若い人の意見を聞いて話せたのはよかった - 賛否に偏らず意見交換できるか不安だったが納得して満足して毎回参加することができた - 最初は嫌だなと思ったが来ているうちに賛否関係なく夢中になって議論ができて楽しかった - 説明と対話は異なるので説明の機会であれば対話の場という表題には違和感がある - 説明の場と集まって対話したい人の場は分けて考えてもよかった - 場のルールに従って参加者がそれを守りながら話あったことがよかった - 説明のなかで知りたいことなど深掘りして急遽議題化したりしたことは運営委員会が機能していたおかげ - 資料もわかりやすく出ていたし話しやすい環境だった - 対話の場は事業者であるNUMOが運営しているため、一定の方向性がある - 賛否の考えを示していかないと、事業者の方向性に影響を受けてしまうのではない

【① 場づくりについて】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

（Q2.）

- 会則の趣旨を理解せずに退会された方がいたのは残念
- 推進派と慎重派の専門家の話が実現していない
- 放射線の話も何でもないような印象の話が多く、そうでない専門家の話が実現していない
- 事務局、参加者ともに、お互いの意向を尊重するのが難しい状況であった

<神恵内村>

（Q2.）

- グループワークの時間が足りない、いい感じに温まってきたところで終わってしまう
- 振り返りをして再度議論をするならよいがテーマが変わってしまうので振り返りの必要性があるのか
- 批判的な方の意見を聞く時間が取られすぎている
- グループワークでは対話ができている
- 自分の考えをはっきりと表明してから、意見交換をしてもよかったのではないか

【② 議題の設定】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目 Q1.議題は、参加者の意見を踏まえて決められていましたか。

<寿都町>

- 学者が推論や理論のみで情報を流布されるのは困る、最新の科学的見地に基いて情報提供してほしい
- 多様な有識者の意見をもっときいてみたかった
- 議題は地層処分からはじまってまちづくりに進んだのは順番としてよかった
- 文献調査段階で終わる可能性もあるのに、まちづくり議論はまだ尚早ではないか
- まちづくりは役場と議論するならよいが、いまの時点では現実性に乏しいのでは
- 議題を決める際に、運営の人が何個かピックアップした上で、会員向けのアンケートを実施すれば、もう少し会員が議論したいことを話せたのではないか
- 議論のテーマによって開催頻度を詰めるなどテーマによって変わってくるのではないか
- 議題の選択肢から希望の多いものを選ぶ方法
- 1つの会場に複数のテーマがあり話したいことを選べる方法
- 全体の場合よりもグループワークの場のほうが意見が言いやすい
- 議題に関して、賛成派の意見はどんどん実現していくと感じた
- TRUは住民説明会では説明されていない
- 説明は丁寧でも最後に安全という落ちがある
- 議題を提案すること自体が初めてであり、適切な提案をできるかどうか難しく感じた

<神恵内村>

- 意見が異なるのは仕方がないので運営委員会に任せており皆さん納得しているのでは
- どこまで詳しく勉強すべきなのか、学者になるわけではないのに終わりが見えない
- もっと知りたければ専門家に個別に聞くことで全員で話す必要性がないものもある
- グループに分かれて興味があることができれば結論がでなくても納得できる
- テーブルごとにテーマを分けて話したい、テーマごとに話せると満足度が高い
- 批判的な地質学者の意見を聞く機会が反映されたのはよかった
- 賛成、反対の有識者の討論はもう一度くらい機会があってもよかった
- 言葉が難しく、理解に時間がかかったが、一生懸命意見を出し合った
- 神恵内の地層がどうなっているのか興味がある
- 文献調査以外にも村の将来について議論する場がありよかった
- 地層処分について、専門家の意見やメリットとデメリットの関係についてもっと聞きたかった

【③ 形式】対話の場合会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.小グループに分かれた、ワークショップ形式での意見交換のやり方について、どう感じますか。
Q2.参加してみて、他者の意見にもいいなと思えるものはありましたか。

<寿都町>

(Q1.)

- グループワークは話し合いができてよかったが、グループごとの意見を取りあげて深掘りしてもよかった
- 全般的に少し対話の形にはなっていなかった
- 産業団体の代表は組織を背負っているので発言しにくい部分があったのではない
- グループワークは仲間内で話しをするだけで意味を感じられなかった。何かをする時には行政が絡む。役場の人に考えが伝わらず、役場も議論に参加すべきだったのではない
- 対話は名ばかりで地層処分の勉強が目的であれば、コの字型ではなく正面を向いて学んだほうがよかったのでは
- グループワークは毎回同じ人ではなく、メンバーを変えていろんな人の意見を聞いてみたい
- 参加者の構成における賛否が偏っているのでは、反対の意見も聞いてみたかった
- グループワークのほうが話しやすい
- 賛成、反対の人と一緒に議論させても一つにはならないと感じた
- 団体のトップが町の指名で来てるので意見出しが活発にならない
- 小グループや全体での議論であっても、参加者の意見は十分に聞けない
- テーブル毎にファシリテーターがいることで、直接相手の発言を聞き取り、ワークショップにおいて薄まってしまうもどかしさがあった
- 指名されて参加している立場のため、本音が言いづらかった

(Q2.)

※Q1.に含む

<神恵内村>

(Q1.)

- グループワーク時の雑音や距離感は課題
- いろいろな業種や年代の人が集まり話すと楽しい、人数的にもちょうどよい
- 参加者の構成はよかったが若い人、高校生なども入ってもよい
- 神恵内出身で外から村を見ている若い世代の参加
- 話し合った先にどうしたいのかが分からないので何のために話しあう機会だったのか
- グループワークはみんなで話しができ、異なる意見や気づきもあった
- グループワーク形式であっても、話す人は限られてしまうため、投票やアンケート等、自分の意見を書く形式でもよかったのでは

(Q2.)

- 参加してみていろんな考えがあることに触れて有意義だった
- 自分にはない質問や疑問点が出されたことでさらに参考になった
- 丁寧に回答してもらえたことがよかった

【④ 参加者の構成】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.参加メンバーの構成について、どう感じますか。こういう方も参加すべきという方はいますか。

Q2.人数や規模は、バランスについてどう思いますか。もっとよい方法があるとすればどんな方法でしょうか。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 活発に議論できたのはまちづくりテーマでのグループワークだが、地層処分事業の理解を深める目的ではできていない
- ・ 参加人数の大半が議員で占められていた
- ・ 女性の参加者が増えると考え方も多様になる
- ・ 女性だけの議論の場だと話しやすい状況になるのでは
- ・ 町内の地区ごとに一般の町民がまちづくりを話す機会にはなかった
- ・ 町民の意見をバランスよく聞くためには、10代から50代まで年代ごとに均等に町民を参加させてもよかった
- ・ 参加者を町の指名で選んだことが反対派には受け入れられないのでは
- ・ 視察・見学後のほうが話しやすい、対話の場はセレモニー的なのもっとざくばらんに話ができる場が必要
- ・ 町の将来に向けた勉強会のように反対の意見の人と一緒に勉強できる場が必要
- ・ 若い世代の参加者をもっと増やすべき
- ・ 女性の意見をもっと聞いてみたい
- ・ 外からみると町には分断が起きてしまい対話どころではなくつらい
- ・ 慎重な立場から会場に経産省やNUMOや町長がいる場では対話しづらい
- ・ 「対話の場」に参加しているが、参加者構成をよく分かっていない
- ・ 賛成・反対と別々に議論する方が、議論しやすいのではないか
- ・ 高齢者が多く、人数も少ない限られた場で話しをしても、町民には広がらない
- ・ 文献調査開始前に勉強する場が必要、開始後の勉強は無駄
- ・ 地域の分断が始まってから、対話をするのは難しい

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 団体に偏りすぎ、地区や町内会のバランスも配慮できたのでは
- ・ 団体や組織から参加している人はその団体や組織内での情報提供機会があったほうがよかった
- ・ PTA役員会でも5分でもいいから情報提供機会がくれたかもしれない
- ・ 役場の人も村議も参加できる誰でも公募で参加できる方法
- ・ 団体や組織から人を出してもらっているがそれでも不足があり神恵内ではこれ以上の構成は大変
- ・ 公開は個人と発言が特定されてしまうので名簿での公開は避けた
- ・ 団体の代表であっても、団体のなかでは何を議論しているのか聞かれないので自分からも話さない
- ・ 参加者を推薦する際の柔軟性が欠けていた
- ・ 役場関連の団体の推薦者が多く、基本的に公募を優先してもらったかった

【④ 参加者の構成】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

（Q2.）

- 人数を増やして多様な意見が聞けるようにしてもよいのでは
- 賛成・反対一緒に議論しにくければ、それぞれのチームを作って月 1 ごとに開催する方法もあった
- 女性や反対の意見の参加者を増やす方法
- 公募で町民から参加者を募る方法
- 団体の長は組織の意見と捉えかねられず、もうひとり同じ団体から参加を募ればバランスが取れるのでは
- 会則に縛られず、始まったら参加者側にも決める権利を持たせてもらい柔軟に運用する方法

＜神恵内村＞

（Q2.）

- 役場の若手職員や学校の先生なども参加してはどうか
- 若い世代の参加者を増やしたほうがよい

【⑤ 開催頻度・タイミング】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.開催頻度や時間帯（平日夜）について、どう思いますか。

<寿都町>

- 専門的な話になると参加者同士の対話になりにくい
- 仕事終わりの平日の夜に、高頻度に参加するのは負担に感じた
- 年間の開催スケジュールなど、見通しがわからない
- 対話の場は参加したい人の都合に合わせて、柔軟な運営をするとよい。1つでなくてよい

<神恵内村>

- 開催は平日夜がよい、週末は行事もある
- 開催間隔が2カ月では空きすぎで振り返りなどしたくても忘れてしまう
- 開催頻度が1.5カ月に1回だった時は高頻度だと感じた
- 開催日は普段と異なる生活リズムとなり、疲れた

【⑥ 情報提供】対話の場合会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.対話の場で提供した情報は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。

Q2.安全性についてNUMOが情報提供したことについて、どう感じますか。

Q3.対話の場で提供した情報は、文献調査に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また、文献調査について、理解を深めることにつながるものでしたか。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 情報提供で地層処分の技術の高さは理解できた
- ・ 幌延を見学できよかった、六ヶ所は地層処分事業のまちづくりとは現実とかけ離れている
- ・ 地層処分という技術が確立されていないかどうかは、比較のしようがなく、精度の高さも分からない。ただ、日本の原子力技術と科学の力は信じている
- ・ 地層処分は100%と言えるのか、99%安全でも1%のリスクが残る
- ・ 1%のリスクの重みを知り、理解することができた
- ・ 慎重派の会員の質問にも事務局がきちんと回答していた
- ・ 勉強での基本的な理解に加え、現物を見られる視察が有効である
- ・ 参加者が希望する議題で実現していないものがいくつかある
- ・ 勉強会で知識を増やしてから対話形式の場を実施すべきではないか
- ・ 地層処分がなにか分からない段階より、勉強してから対話したほうがよい

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 幌延や六ヶ所など視察・見学に行ったことはよかった
- ・ 学者間でも見解が異なりオールジャパンで議論してもらえないのか
- ・ 反対するのは簡単だが活断層など未知のものもあって処分場をつくってもつくらなくてもリスクはあり続ける
- ・ 地層処分事業が国や規制委員会など大きな枠組みのなかで実施されていることが分かって参考になった
- ・ 情報提供は絵がわかりやく説明も聞きやすかった
- ・ まちづくりや村の将来の話をもう少し議論してみたかった
- ・ **村の基幹産業等、より詳細の部分を議論したかった**
- ・ **事業について理解を深めるとはということか**

【⑥ 情報提供】（つづき）対話の場合会員・委員による主なご意見

<寿都町>

（Q2.）

- ・ 町も少し関わりを持ってもよかったのではないか
- ・ 地下が安全なのかボーリング調査して明らかにしてほしい
- ・ 慎重派の有識者による対論の機会が実現していない
- ・ JAEAなど第三者機関が説明してくれる方法
- ・ 地層処分も安全神話という思い、疑問は取り除かれてない

（Q3.）

- ・ 町は広報などの面で関わりが必要だったのでは
- ・ 文献調査だけでは分からないことが多い、概要調査とセットで実施すべき
- ・ 安全であると説明を受けたからといって、リスクを考慮すると、すぐ先には進めない
- ・ 対話の場に参加する前に、ある程度の勉強が必要であり、そうしないと自分の意見を言える状態にはならない
- ・ 両方の専門家の意見を聞ける場がほしかった

<神恵内村>

（Q2.）

- ・ N U M Oは事業者なのでいようにプレゼンする面は否めない
- ・ 都合が悪いことは回答しないという場面はなかった
- ・ 神恵内の具体的な位置に引き寄せて説明してほしい
- ・ N U M Oの情報提供ではマイナスな情報は出てこないのでは
- ・ N U M Oは事業遂行が使命、情報提供を行うのは当たり前
- ・ 異なる意見や立場の違う意見も情報提供する場
- ・ 反対の有識者などN U M Oにマイナスの情報も聞いてみたい
- ・ N U M Oの情報提供で説得されている印象はない
- ・ 質問の回答の根拠はわからないことがあった
- ・ N U M Oが一生懸命答えている姿勢はわかった
- ・ 地域特有の情報や事情を理解するために、より具体的な情報が必要だと感じた
- ・ N U M Oは、安全性や地層処分について、一方的な説明をし、違和感があった
- ・ 事業の話とその対話を同じ場で行うことへの違和感があり、技術的な説明と対話をする場は別の場で行うべき

（Q3.）

- ・ 情報提供されたものは非常に難しく、ファシリテーターが細かく仲介してくれて理解が深まった
- ・ ファシリテーターの説明なしには理解できない情報が4割以上あった
- ・ 日頃見ていた岩石が水冷破碎岩だと知りいろいろなことが学べた
- ・ わかりやすさの点で簡略化したとしても資料作りには限界がある
- ・ ファシリテーターがかみ砕いてくれたおかげで理解できた
- ・ 地元の地名や地理に引き寄せて初歩的に説明してくれるとよい

【⑦ 進行方法・ファシリテーター】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

- Q1.進行方法は、偏ったりしていませんか。改善すべき点がありますか。
Q2.ファシリテーターがいたことで、新たな気づきが生まれたり、対話は生まれましたか。

アンケート形式で実施

<寿都町>

(Q1)

- ・ スムーズにバランスの取れた進行で論点をまとめていた

(Q2)

- ・ 限られた時間の中で適切に場をまとめ参加者の意見を導いていた
- ・ ファシリテーターとNUMOの方の違いが感じられない

<神恵内村>

(Q1)

- ・ わかりやすく説明していただいた
- ・ 多くの人の意見を出してもらえるよう進行してくれた
- ・ 色々な意見をきちんともれなく取り上げていたから
- ・ 意見を流すことはこれまでもなかった

(Q2)

- ・ 私たちの言葉を拾って、わかりやすくまとめてくれた
- ・ 難しい言葉をかみ砕いて説明してくれた
- ・ もう少し聞きたい他者の意見を聞けて、自分の意見もそれに乗せて伝えられた

【⑧ 公開制】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.議論の部分は、非公開ですが、話しやすいと感じますか。名前や職業等、個人の属性がわからないように配慮した上で議論の内容を公開すべき、という意見についてどう思いますか。

Q2.メンバー以外の町村民の方の傍聴や、町村以外の方への公開についてはどう思いますか。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 関心のある町民が傍聴できるのであれば公開でもよい
- ・ ライブ配信は論外ではないか
- ・ 全面公開だと個人が特定されてあとから指摘を受ける懸念がある、みんな口ごもってしまうのでは
- ・ 10代の一般町民の参加を募った場合に、その発言を公開してしまうのは避けた方がよい
- ・ 全面公開になればもっと言葉を選んで話すようになる
- ・ 全国に議論の様子が配信されると知らない人によるSNS投稿などが心配
- ・ 情報公開の時代でもあり、全国で初めての事業なので全国の人に知ってほしいという気持ちもある
- ・ 傍聴を許可すると発言しにくい
- ・ 時代の流れで議論を公開すべき点は理解できるが小さい町なので誰が何を言ったかは自然に伝わってしまう
- ・ ライブ配信は活発な意見交換を妨げるのではないか
- ・ 公開の場で意見を言える人が参加すれば議論が活性化し町にも広がる
- ・ 町民は対話の場をいつやっているのかも知らない
- ・ 関心のある町民には参加してもらうことが必要
- ・ 名前等も公開できる人は参加し、公募も含めて自由闊達にオープンに議論すべき

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 幌延や報道が冷静になってからはいまの公開方法で議論を見てもらっても違和感なく話せている
- ・ 公開によって参加してみようと思う人もいるかもしれない
- ・ 公開すると意見が賛成か、反対かに切り取られる恐れがある
- ・ 交付金の使途などの議論は公開したくない
- ・ グループワークの部分は非公開のほうがよりよい意見がでる
- ・ 村民への傍聴での公開はかまわない
- ・ 公開することにより、発言しにくくなる

【⑧ 公開制】（つづき）対話の場合会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q2.)

- 町も、傍聴に町民が来る場合も言葉を選んで話すようになる
- 話したことが素直に伝わればよいが、違う意味で伝わってしまうのはよくない
- 傍聴は否定的、反対派の傍聴者からのやじが出てしまうことが心配
- 反対派の人は熱心なため、傍聴を許すと会場の雰囲気が悪くなる
- 団体の代表者の発言は、団体みんながその考えだとひとくりにされる
- 議論が終わったあとにまとめて町民に公開する形でよい
- 寿都だけでなく、近隣町村にも影響が及ぶ問題であるため、公開してもよい

<神恵内村>

(Q2.)

- 村外から傍聴に来るのは関心の強い人でどんな人が来るかわからない
- 岩宇4町村の人には公開して、人数制限する方法
- 本当はすべてオープンにして理解を深めてもらわないとだめ
- 一部の名簿だけ公開するやり方に違和感を感じる、ならば全て非公開にすべき
- 村外の傍聴者が入ることには抵抗がある
- 村外の傍聴の公開は傍聴者にもいろんな思惑があるので怖い感じがする
- いまの対話の場がアットホームなのでこのままでよい
- 対話の場の傍聴は事前申し込み制であり、気軽に傍聴しにくい
- 周りから何をやっているのかと聞かれても、説明することが難しい

【⑨ 結果の周知】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.議論の結果は、町民や村民の皆さんに、伝わっていると思いますか。

<寿都町>

- 反対賛成の人が議論していて中間の人は話したがない
- チラシには一般の町民は興味を示さないのでは
- 新聞の折り込みも購読率が減っており効果が薄いのでは
- 町民には議論の結果は伝わってない、内容が難しいのではないか
- 議論の結果は町民にもっとわかるようにしてほしい
- 賛成している人でもチラシは文字が小さいし、難しいので読めない
- ホームページはなかなか見ない

<神恵内村>

- 村民には議論の結果は伝わっていない
- 地区ごとのミニ集会や団体ごとなどの説明など、何か行事のあるタイミングで説明に来てもらう方法
- チラシは配っても読まない、耳で聞いたほうがよい
- チラシは目を通してはいるが中身が難しい、村のために何かしてくれていることは理解できる
- チラシの中身はわからなくても事業や調査に関心のある人が一定数いるのはチラシのおかげ
- チラシを配布しないと特定の人で何かしていると批判があるのでその効果もある

【⑩ 満足度・相互作用】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

- Q1.対話の場の参加後に、議論の結果を家族や知人の方に、お話しする機会がありますか。
Q2.対話の場に参加して、他者の意見に触れて、考え方や意見に変化はありますか。
Q3.参加しづらい、行きたくないと思った時はありますか（それはなぜですか）。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 聞いてくる人も少ない、関心が薄いのでは
- ・ 家庭内でも話さない
- ・ 対話の場の初回に議論がもめてしまったのは残念
- ・ 家庭内でも聞かれた時くらいしか話さない、あまり興味を感じていないのではないか
- ・ 家内は幌延に見学に行った後は少し関心を持った様子
- ・ 配布される資料が難しすぎて、説明を受けずには理解するのは難しいのでは
- ・ 多少理解しているが、まったく知らない人に話をしても理解されないのでもって駄目
- ・ 地層処分という言葉は知っていても、その中身はまったく分からないので会話にならない
- ・ 反対派の人とはけんかになってしまうので会話はできない
- ・ 議論の結果を外で話してはいけないものと思っていた
- ・ 反対の意見の人とはあまり話をしない
- ・ 地層処分のような賛否のある事業理解を町で行うことは限りなく難しいのではないかと感じた
- ・ 議論の結果を家族や知人に話すことはあまりない
- ・ 対話の場の様子を家族に話すことはある
- ・ 対話の場自体、全然知られていない

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 家庭内では話をすることがある
- ・ 議論の結果を家族で話したりもしない
- ・ 議論の中身を話すことはほとんどない
- ・ 議論の内容を村内で話すことはない、説明するのは難しい
- ・ 接客時や村外の知り合いに聞かれたときに話す
- ・ チラシが配布されると、話すきっかけになる
- ・ 「対話の場」の概要の説明自体が難しく、部分的な説明ならできるものの、漠然した質問には適切に答えられない
- ・ 議論の内容より施設見学について聞かれることが多い

【⑩ 満足度・相互作用】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

（Q2.Q3）

- まちづくりを一生懸命やろうという町民の皆さんがいることが参加を通じて分かった
- 後半のグループワークに入ってから議論が活発になった、多少公開してもよかった
- 反対意見の人と議論をかみ合わせるのは難しい
- 考え方は反対でも堂々と意見が言えて参加したい人を何人か公募で集めるほうがよかった
- 地区ごとに何人か選定して数を増やす方法もある
- 対面式は他者の意見はほとんど出ていない、まちづくりテーマのグループワークでは参加者同士話すようになった
- （公開して）話中に周囲を囲まれると、言葉を選んだり、気を遣わなければならない
- 自由闊達に話せばよいがそうでない雰囲気を感じる
- 学術会議のような中立な立場の話を聞けるのかと思ったが受入れられなかった
- 慎重な立場の人がいなくなり参加するのが毎回辛かった
- グループワークになってから、さまざまな考えに触れられ、慎重的な考え方を知ることができ、参考になった
- 他の参加者の意見を聞いて、自分の考え方が変わったことはあまりない
- 会則でもめた時は行きたないと感じた
- 町長など多くの人が並ぶ場面で話すように求められても、何を話せばよいのかわからず、戸惑う
- 自分と同じような考えの参加者が少なく、参加が辛いと思ったこともあった

<神恵内村>

（Q2.Q3）

- 初めは嫌だなと思いながら理解が進んだことで楽になった
- 他者の意見に触れて考え方や意見に変化はあった
- 疲れや仕事など自分都合はあるが、対話の場が嫌で行きづらいつと感じたことはない
- つくる、つくらないと、はっきり反対という人は周りにはあまりいない。先のことであり、いいのか悪いのか結局は分からないという話で終わる

【⑪ 設置者、国・NUMOの関与のあり方】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

- Q1.場の設置者は、町（村・NUMO）でしたが、町の関わりはどのように感じますか。
Q2.事務局は、NUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。
Q3.国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 調査開始後にNUMOが前面に立つのではなく、町も説明などで前に出てきてほしい
- ・ 対話の場の人選の観点でも町の関与は必要
- ・ 対話の場で町の姿は見えたと、町の関与は感じない
- ・ 対話の場に参加しているが、設置者が分からない
- ・ 町は中立な立場を保つ必要がある
- ・ 町とNUMOで何を話していたのかが見えなかった

(Q2.)

- ・ 対話の場の事務局はNUMOでよい
- ・ NUMOは専門性の意味で、質問に対する回答などNUMOが情報提供することでよい
- ・ NUMOは電力会社に見えてしまうので海外のような第三者機関に運営させる方法
- ・ 法律にNUMOが担うことが決まっている
- ・ NUMOは電力会社からの派遣だから地層処分事業でも分断が起きてしまう
- ・ 科学的な説明も第三者の中立的な機関が必要
- ・ フィンランド等の諸外国のように、国主導ですすめていくべき事業であって、NUMOに押し付けられているように感じ、国の関与が不十分

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 村の職員の関与が少ないのはもったいないが、行政の介入と取られたりするのであればいまの形がよい
- ・ 村が設置者として関わる必要はない
- ・ 地域振興の議論では役場の話も聞いてみたくなるのでNUMOと村の共同事務局のままでよい
- ・ 調査の応募したのは村なので事務局として関与して当然
- ・ 村の職員もテーブルワークに入ったほうが話ができる
- ・ 村は開催場所を貸しているくらいの認識でしかなかったが、設置者となると違和感を感じる
- ・ 交付金の説明をする場面があったことを鑑みると、村とNUMOの共同運営でいい

(Q2.)

- ・ 村民が担うよりNUMOが事務局でよい
- ・ 海外のように第三者機関が担うのは理想ではある
- ・ 第三者機関が担う方法
- ・ 文献調査段階では第三者機関までは不要
- ・ 第三者機関で有識者が運営する方法もある
- ・ NUMOが誘導したりすることはなかった
- ・ 第三者が運営する案を初めて聞いたが、良い案だと感じる
- ・ 第三者に運営してもらい、情報提供者としてNUMOや慎重な考えをもつ専門家を呼べばよいのでは
- ・ 第三者機関の場の設置は、一步間違えれば、良い結果にも悪い結果にもつながってしまう

【⑪ 設置者、国・NUMOの関与のあり方】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

（Q3.）

- 国は積極的に取組んでいないのでは
- 地層処分を国民全体の課題として認識させてほしい、北海道だけの問題になっている
- 法律や現在の動きなど国の情報提供がもっとあってもよかった
- 国の顔が見えるような進め方をしてほしい
- 地層処分は国際的な方法で日本だけが進まないわけにはいかず、国民全体の課題として認識させてほしい
- 国がもっと積極的に関わってもよい
- 国はもっと真剣に関与してほしい
- 国の場への参加は参加者が監視されているようで難しいのでは
- 国の関わりが対話の場で説明されたことがなく、議論もしていないため、関わり方には疑問を感じる
- 国の事業であるため、オブザーバーのような立場ではなく、積極的にリードしてもらい、真剣に関わってもらう

<神恵内村>

（Q3.）

- 手を挙げた自治体を国がもっと積極的に守ってほしい
- 調査に手を挙げるのはすごい勇気がいること
- 知事会や市町村長会などで大臣がこの問題へ理解を得ることを示してほしい
- 反対なのに何も来もしない、知事には対話の場を見に来て地域の声を聞いてほしい
- 国策であれば日本中の問題として国がもっと地方に働きかけてほしい

【⑫ 地域における位置づけ】対話の場会員・委員による主なご意見

1. ご質問 項目

Q1.対話の場は、地域の人たちにとって、どのような場だと思われていたと思いますか。

Q2.文献調査期間中に必要な対話の場とは、どんな場だと思いませんか。

<寿都町>

(Q1.)

- 対話の場は町が選んだ一部の人が話し合いをしている場
- 勉強会や説明会の場
- 町民のなかで知らない人は対話の場で勝手に議論していると思っている人もいる
- まちづくり議論は、交付金とセットでまちづくりへの協力が概要調査とセットに見えるのではないかと

<神恵内村>

(Q1.)

- 対話の場に参加するだけで外部からは賛成と思われている
- 対話の場がなにか、何をしているのか分かっていない人がほとんど
- 説得される場や賛成する人が集まる場とは思わない
- 世代、男女など地域の人々のいろいろな意見が聞けるような場づくり
- 大きな規模の都市ではひとつにまとめるのは難しいのではないかと
- 1回目に議論して原点となる会則を定めることは大事
- 対話の場のことはほとんど聞かれない
- 秘密結社だと思われているのではないかと
- 対話の場について、聞いてくる人がいない

【⑫ 地域における位置づけ】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

＜寿都町＞

（Q2.）

- N U M O 職員が町民と日常的な関わりがもっとあったらよかった
- 気軽に対話するのは難しいので、同じ意見同士の人で固まりつつディベート形式にする方法
- まず地層処分に関する基本的な理解がないと、次の段階の調査への賛否の判断もできない
- 賛否に関係なくN U M Oと一緒に町がもっとリードしてもよいのでは
- 第三者を入れるほうが反対派の人の関与や納得が得やすいのではないか
- 最初の住民説明会は多くの住民が参加し関心が高かった
- 自分の意見が言えてオープンな場になると住民も行く気になる
- 地域によって賛否の考えはそれぞれであり、即座に解決策が出てくることはない
- 対話の場や勉強会は、もっと深く理解を得られるような取り組みが必要であり、より深い話題を切り込んでいくべき
- 調査開始後に対話の場か説明会が必要だった
- 意見を言いやすい場、自分の意見が反映される場ならよかった
- 指名は場を狭めてしまう

＜神恵内村＞

（Q2.）

- 他地点でもこうした対話の場は必ず必要で地域の人が集まってよい方向に持っていけばよい
- 賛成、反対の人は集まって対話の場を開いても最後まで対話にならないのでは
- 対話の場は、その地域に集まった人で変わってくるもの、神恵内での対話の場を他地域の参考としてよいか、分からない

【⑬ その他（視察・見学などの活動等）】対話の場会員・委員

1. ご質問 項目

- Q1.見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。
また、地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2.対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

<寿都町> (Q1.)

- ・ 視察・見学はよかったが参加者が一部に限られたことが残念
- ・ 町民にも自由に公募で行けるとよかった、一部の参加者のみで参加した人も言いにくい雰囲気があった
- ・ 公募で誰でもいけますとしておけばもっと違ったかもしれない
- ・ 視察・見学はいままで想像していたものとは違って勉強になった
- ・ 自分の目で見て触れることで積極的に議論に参加できるようになった、もっと多様な人が視察にいくべき
- ・ 視察・見学は一般町民に公募すべき、一部の人を秘密裏に選定しているようなやり方はよくない
- ・ 視察・見学は全額自己負担ではなく、一部負担などであれば参加の勉強への熱意も伝わるのではない
- ・ 反対派の人でも視察・見学に連れていき、視察後に振り返りなどの時間を設けておくとう有効では

<神恵内村> (Q1.)

- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかず、安全性を確保するのにあそこまでやるのかという印象
- ・ オーバーパックの実物を見て、1000年以上もつと感じた。幌延で働く研究者や作業員の頑張りを見て、自分自身も地層処分について、勉強しなくてはと感じた
- ・ 子育て世代は視察・見学に参加できていない
- ・ 慎重に考える研究者の意見を聞きたい
- ・ 提供される情報が選別されることへの懸念が大きく、広範囲での情報提供が望ましい
- ・ さまざまな立場の人々の意見を聞ける場があってもよかったのではない
- ・ シンポジウムには、対話の場の委員以外の人々も参加していることから、村民も一定の関心を持っている
- ・ 幌延の地下施設を見学して、地層処分についてさらに学ぶ必要性を感じた
- ・ 見学によって実物を見たことで、自分の記憶に残った
- ・ 勉強のために、もっと若い世代の人に見学してほしい

【⑬その他（視察・見学などの活動等）】（つづき）対話の場会員・委員による主なご意見

<寿都町>

(Q2.)

- ・ 文献調査は2年の約束が3年に延びてしまいやる気を感じない
- ・ 文献調査は国が選定して申入れをするほうが早いのでは
- ・ 対話の場以外でも町民にもっと情報提供や交流を深めることで知っていただくきっかけになるのでは
- ・ 視察見学ではなく旅行に行ってきたというだけではないか
- ・ 能登地震の能登半島や胆振東部地震もマップで緑だが説明がない
- ・ （文献調査の応募は）住民の話し合いなく申し込めるので分断が起きている
- ・ 若者には推進派と慎重派両方の話を聞かせるべき
- ・ 若者には偏った意見だけで判断させてはいけない
- ・ 原子力発電所がある限り避けられない問題であるため、国がもっと真剣に取り組むべき。NUMOが中間に立って大変な状況にあるため、NUMOにもある程度の権限を与えるべき
- ・ 町民向けで堅苦しい場では駄目

<神恵内村>

(Q2.)

- ・ 対話の場は円滑に進められている
- ・ スケジュールの主導権を対話の場委員にするのか、主催者側にするのかバランスをとる必要
- ・ 北海道以外の文献調査候補地をぜひ見つけてほしい
- ・ 対話の場は、事務局が望んでいるスタイルや進め方を分かった上で参加している
- ・ 賛成や反対の意思表示ができる人はそれを表明した上で参加するのが好ましい
- ・ 対話の場の参加者が、世代や性別などが幅広く、さまざまな人がいる状況を踏まえ、他の地域でも同様に満遍なく意見が聞けるように、多様な人々が参加することが望ましい
- ・ 対話の場の会則は初回で議論して作り、そこに記載されている目的は、何か問題があった時に立ち返ることもできる。他地域で場を設ける際にも、会則を最初に決めることは重要になってくる
- ・ 文献調査報告書案について、村民への周知より報道が先に出てきてしまったことへの違和感
- ・ 対話の場で提供された情報の中に、概要調査を前提としたような表現があった
- ・ 概要調査を前提とした表現に、行政の横柄さが出ている。国策として法律で決められたことを進めるという前提で物事を進めている点が問題であり、概要調査もその流れに沿っているため、これはやっている人たちの横柄さにほかならないと感じている
- ・ 報告書完成後、概要調査受け入れの意思表示がされたときに、そのまま調査するという流れになることが問題で、現状の進め方には違和感がある
- ・ 最初の説明で文献調査の説明だけで十分なはずが、処分場選定後の全体の話になってしまったことで、そこから住民が賛成派と反対派と分かれた
- ・ 国の事業であるが、地方に丸投げをし、放っておくのかという印象をもっている

【① 地域における位置づけ】 主なご意見

1. ご質問項目

Q1.対話の場について、どのような目的で開かれる、どのような性格の会議として、捉えていましたか。

<寿都町>

- ・ 開催は知っているが議論の中身は聞いたことがない
- ・ 反対の意見の人は参加していないのでは
- ・ 産業団体のリーダーが意見交換を行う場
- ・ ケーブルテレビで見ても背中しか見えない、議論の中身が伝わってこない印象
- ・ 参加者が家庭や町で議論したことを伝えていない
- ・ 男性にお任せの側面があるので、女性が参加する場をつくってもらうことはよい
- ・ 寿都のまちにとって処分場建設がよいと周囲の人たちと話し合うこともある
- ・ 話し合うのは同じような考え方の人が多く反対の意見の人と話しあうことはない
- ・ 賛成か、反対か誰がどの意見であるか分かるので、話は避ける
- ・ 3年たって漁師さんなど、当初から考え方が変わってきたことも実感する
- ・ 過激に反対していた人が少なくなっているまでは一部でしか聞かない
- ・ 核イコール拒絶だったが、見学に行き勉強になり、そんなに恐ろしいものでもないことが分かった
- ・ 地層処分を進めている自治体を国が発信することを言い聞かせるパフォーマンスの場
- ・ 交付金で財政のためになるのであれば黙っていようという意識からスタートしてしまったのでは
- ・ 会員の選定過程や議論も非公開でプロセスが隠されて結果だけ示されても不信に感じてしまう
- ・ いろいろなことを守ろうとしたために、町民には伝わらないものになってしまっていないか
- ・ 対話の場の非公開が一番の問題
- ・ 会議というよりまず地層処分を知ってもらう場
- ・ 秘密裏に進めたりすることはやめてほしい
- ・ 真剣に核のごみの問題を国が考えるのであれば、日本で初めてのことをやってほしい
- ・ 参加者に年配の男性しかいない印象
- ・ 閉鎖的で説得の場、人選に問題がある
- ・ 町民に地層処分事業について一層分かっていただくための場
- ・ 場を通じて全国に発信して他自治体の応募も促すような状態を作りたかったのではないか
- ・ 団体の長で寿都をどうするのか事業を進展の是非などを議論する場
- ・ 寿都の長らがどう考えているか一般町民は知りたい

<神恵内村>

- ・ 放射性廃棄物問題や関連する産業などを情報交換する場
- ・ 内容をかみ砕いてくれてわかりやすく学ぶ場
- ・ 村のまちづくりについて意見が聞けたのは面白かった
- ・ 賛否を問わず意見を交わしたり知識を深める場
- ・ 事業を推進するための語りの場の要素が強く感じた
- ・ **地層処分事業に関する地域住民の理解を深めるための有効な会合**
- ・ **ある程度の方向性がある場**
- ・ **慎重派の意見が孤立し、賛成派と十分に議論できない場**

【② 結果のお伝え】 主なご意見

1. ご質問
項目

Q1. 議論の結果（地層処分や文献調査）は、町村民の皆さんに伝わっていると思いますか。
Q2. 対話の場のお知らせは、どんな内容だと興味を感じますか。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 議論の結果は町民には伝わっていない、参加者も伝えていない
- ・ 団体の長が所属の団体内で意見の賛否があるので議論の結果を話していないのでは
- ・ 組織を背負っている団体の長より一般町民が参加したほうが話しやすいかもしれない
- ・ 対話の場のような堅い形式ではなく、地域の人が自由に集まれる方法
- ・ 勉強会も町民には知られていない、NUMOが何をしているかもわかっていない人もいる
- ・ 映像もテロップを読むのは疲れるのでチャンネルを変えてしまう
- ・ 音声がないので、付箋が貼られていてもわからない
- ・ 対話の場の議論の中身そのものは伝わっていない
- ・ オープンで開かれた場にしないと町民に伝わっていかない
- ・ 町民も現会員に丸投げしてしまっている側面があり、意見をいう必要もないだろうという雰囲気
- ・ 地層処分・文献調査はなにかは伝わっているけど対話の場の議論はうまく伝わっていない
- ・ 反対派は退会したのに賛成者だけで話を進めていると話がすり替えられているのは気になる
- ・ 合意形成があまりにもなかったことが問題であり、対話の場だけではなく、調査の開始の仕方も悪かった
- ・ NUMOは指針のない状態で活動していることを考慮すると、情報発信に積極的だと考えられる
- ・ 町のやっていることとNUMOのやっていることは理解してもらっているとは思わない
- ・ ケーブルテレビの放送は流れない家庭もあり、それをもって広く知らせたという認識は誤りだ。防災無線等を使うのはどうか
- ・ 神恵内では全戸訪問を実施しているが、寿都ではそのような活動がなく、NUMOを知らない人もいる

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 議論の中身は村民には伝わっていない
- ・ 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- ・ 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- ・ NUMO職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている
- ・ 開催チラシは周りの人も読んでいる
- ・ 文献調査に関する議論の結果は、村民に十分に伝わっている
- ・ チラシは、開催結果の報告、意見の概要のみが記載され、あまり響かない。背景等が分からないため、読むだけとなっている

【② 結果のお伝え】（つづき）主なご意見

<寿都町>

（Q2.）

- 町のホームページは見ない、高齢者が多いのでインターネットは開かない
- 反対派が新聞に折り込んで配っているチラシはよく目につく
- 町民も無関心ではないがどうやって知らせるか工夫が必要
- 町民もこの町をよくしたいという気持ちは一緒
- 概要調査に向けてまちづくりなど希望を持って意見交換できる賛成の人が集まれる場
- N U M Oの事務所に入るのはハードルが高い
- 集まって話すならN U M Oの事務所ではなくフリースペースのほうがよい
- お年寄りがチラシを読むのは難しい、気楽に話ができる場所のほうがよい
- 地域に密着して話し合いの場を持つ方がお年寄りには伝わりやすい
- 賛成、中立派、反対さまざまな意見を載せてあれば興味が湧くのではない
- チラシは賛成の人にはほとんど読まれていない
- 一般住民には内容が伝わりにくく、情報の鮮度が落ちてきて興味が薄れている
- チラシには都合のNUMOにとって都合の良い情報ばかりが掲載され、都合の悪い情報、NUMO側の考え等、自分たちにとって、都合の悪い点も考慮しながら行動している姿勢を示さない限り、他者からは受け入れられない
- 両論併記をすることが中立な姿勢であり、それが欠けている
- 開催チラシの文字が小さく、小学生からお年寄りまで、細かい情報では見ない
- 寿都はお年寄りが多いため、情報発信をする際は、字を大きくする、写真を増やす等の工夫が必要
- 開催結果のチラシは発行したというアリバイ作り
- 神恵内のファシリテーター作成のチラシは住民視点で作成されており、見やすく分かりやすい

<神恵内村>

（Q2.）

- 現在の公開の方法でよい、活字でまとめて出すことでよい
- 参考文献や書籍などの紹介があるとチラシも見てみたくなる
- 文章が多いと読まないが、事業内容より職員紹介の方が惹きつけられた

【③ 公開制】主なご意見

1. ご質問
項目

Q1.対話の場に参加や傍聴してみたいですか。公開する場合、どこまで公開すべきと思いますか。

Q2.対話の場がどのような場であれば、自分も参加してみたいと思いますか。

Q3.対話の場の参加者の構成や進め方、町村民の皆さんへの情報提供について、どのような御意見をお持ちですか。

<寿都町>

(Q1.)

- 参加して皆さんの意見や気持ちを聞いてみたい
- 反対の意見も寿都のまちをどう考えての反対なのかを聞いてみたい
- 寿都、島牧、黒松内の近隣町村の方には公開してよいのでは
- 傍聴して発言を聞いている人を観察してみたい
- 公開制をとるのであれば一部ではなくすべて公開していくのがあるべき姿
- 全部公開してもよいが、小さい町では発言と個人が特定されてしまうのが心配
- ライブ配信の場合はノーカットすべき
- もっとオープンに公開すべきだが、マスコミまで入ると意見が切り取られる懸念
- 公開はせずに、文字起こしでの発信が限界では
- 現場にいないかいて得られる情報は大きく異なる
- 町民は傍聴を自由にしてもよい
- ネットでの視聴が可能なら、傍聴しなくてもよい
- 日本で初めて行われる取り組みであり、国民に明確に示していくためにも公開した方がよい

<神恵内村>

(Q1.)

- 議論の中身は村民には伝わっていない
- 3年が経過して関心が薄れてきているのでは
- 団体の長でも大小があり個人でも参加者はなかなかいないので、代表者が参加し持ち帰って話を広げてほしい
- N U M O 職員が全戸訪問で地道にお知らせをして回っていることはよく見ている
- 公開範囲は現状のままでよい
- 時間の都合で傍聴が難しく、自分の考えを述べたいという気持ちがあるが、職業上の立場から考えると、思いの丈を述べることは難しい

【③ 公開制】（つづき） 主なご意見

<寿都町>

(Q2.)

- 時間があえば参加してみたい
- 意見が対立するわけでもないのに、参加しても構わない
- 寿都では立場のある人のみが参加しているので町民には伝わらない状態が続いているのでは
- 現在の構成員に加えて人数を増やした方がよい
- 町民の参加など人数を増やしたほうが理解が広がるのではない
- 対話の場という名前が堅すぎる
- 現在の対話の場と異なる場がもうひとつあってもよいのでは
- 場に参加するのは男性のみと考えてしまうので、女性も参加できる場や勉強会は必要
- 団体の長による構成が参加しづらい環境になっていないか、参加しない会員の空席は無駄ではないか
- 参加者を町民からアトランダムに公平に選ぶ方法
- 参加者は公募で選び、賛成、中立、反対意見バランスに配慮する方法
- 中高生も参加できる機会づくり
- 町民の参加を募る場合は、匿名とする方法
- 町で町議会議員を指名してもよいが、一般町民も参加したい人は参加すべき
- 町の勉強会は意見交換しやすい雰囲気だが、対話の場は発言しづらそうで参加したくない
- 町の主催であった方が、公の場であり、一般の人々は参加しやすいのではない
- 子供のころから原子力発電に対しては疑念があり、反対運動はするが、地層処分の討論には参加しない

<神恵内村>

(Q2.)

- 傍聴者の数はもっと増やしてよい
- 村民のうち20人だけ勉強しても村民には理解が広がらない、町内会に出向く説明の場を継続してはどうか
- 活発な意見公開をするためにはいまの公開のあり方でよい
- 自分の意見を求められること、他の人に自分の考え方を知られることが不快

【③ 公開制】（つづき） 主なご意見

＜寿都町＞ （Q3.）

- ・ 公募がなかったことが対話の場に対する最初の不信を生んだ原因ではないか
- ・ 地層処分に批判的な意見を持った有識者を招いてほしかったがなぜ実現しなかったのか
- ・ 第三者が入るのであれば、全体を監査するのが第三者の役割
- ・ 町の指名、議題の決め方はこのままでよい
- ・ トップダウンで指名しないと自分から出たい人はなかなかいないのではないか
- ・ 日本で初めて行われたことのため、より前段階の議論から始めるべきではなかったのか
- ・ 現在の参加者の推薦となると、同じ感覚の人が選ばれてしまう
- ・ 町民の意識を高めるには、町主催の勉強会の頻度を高めるべき
- ・ 参加者の選定プロセスは疑問をもつ人も多い
- ・ 対話の場と勉強会、それぞれの進め方の公平性を確保する必要性がある
- ・ 公平性の保たれた情報提供が重要であり、今後の新たな対話活動をする際にもその考えは必要
- ・ 参加者は議員が半分、女性や若い世代も少なく、選定方法も神恵内と大きく異なる
- ・ 対話の場は1つでなくてもよい、町議は別に勉強する場を設ければよいのではないか
- ・ 対話の場は対話している様子がなく、勉強会の方が盛んだと感じた
- ・ 対話の場に子育て世代等が参加した方が場が盛り上がったのでは
- ・ 会則がおかしい

＜神恵内村＞ （Q3.）

- ・ 対話の場にも村外から傍聴に来て視察に来てほしいくらいだ
- ・ 村民全員が委員という使命を掲げるくらい、テーマごとに集める人を変えて入ってもらう方法
- ・ 中学生の意見なども面白いかもしれない
- ・ 調査地域の当事者には、消費者の視点や日本の豊かさは原子力のおかげのような説明の入り方は違うのではないか
- ・ 神恵内に永住するわけでもないのに地域のために何でもしますという言い方には違和感を感じる
- ・ 対話の場は議論の場に慣れた人が参加しないと会の趣旨に反する方向になってしまう
- ・ 村民の方を公募で何回か募集している方法でよい
- ・ 賛成、反対の有識者による対論は非常に評価できる
- ・ 参加者が固定であると同じ意見しか出ないため、さまざまな人が順繰りで参加すればよい
- ・ 団体の代表者は年齢層が高いため、役場の若い人等若い世代の意見を聞いてほしい
- ・ 公募が3名と少ない
- ・ 議員が参加できないのは、どういう仕組みだかわからない
- ・ 請願が出され、議会が採択し、住民説明会が形式的に行われたことは、十分にやったようには見えない
- ・ 国がこの問題に対してもっと責任をもつべき

【④設置者、国・NUMOの関与のあり方】主なご意見

1. ご質問
項目

- Q1.事務局はNUMOでしたが、NUMOが担うことに対し、どう思いますか。
Q2.国の関わり方に対し、どう思いますか。どんな時に、なぜそのように思いますか。

<寿都町>

(Q1.)

- 新たな第三者が地域に入るよりNUMOが事務局でよい、顔が見えるほうがお年寄りが安心できる
- 地域ごとのやり方で、地域の人を選べばよいのでは、こうだと決める必要はない
- ファシリテーションを専業とする第三者団体が運営を行いNUMOは情報提供者であるほうが透明で納得が得られる
- 町とNUMOの運営では、中立は保てないので第三者機関が運営する方法
- NUMOが事務局でよい
- NUMOが事務局で異論はない
- 対話の場には不透明な部分が多く、一部の人々はNUMOを非難する傾向にあったが、実際には役場の意向も影響していた可能性があるのではないか
- NUMOは電力会社の機関であることから、地層処分については国とは別に、考えていくべきではないか
- 対話の場の運営は役場がすべきであり、NUMOに任せることが問題。住民への説明は行政が行うべきであり、NUMOは両論を併記して、十分な説明を行うことが必要
- 事務局はどこでもよいが、もっと公開して開かれた場にしてほしい

<神恵内村>

(Q1.)

- NUMOが事務局となり情報交換や勉強を重ねられていることはよい
- 進行はどこにも属さない第三者の組織がやる方法
- 第三者機関のように中立的な立場の人を運営に入れるべき
- 地上保管の話などNUMOとは異なる説明や知識が入ってくるような機会を工夫してほしい
- NUMO職員は一生懸命、地域に密着して溶け込もうとしてやっている
- 対話の場立ち上げ時に住民の情報を活かして進めていくことがはじめにできていなかったのでは
- 対話の場とは本来どうあるべきだったのか疑問に思う

【④ 設置者、国・NUMOの関与のあり方】 主なご意見

＜寿都町＞

(Q2.)

- 国がどのように関わっているか分からない、積極的に関与してほしい
- 国は他人事ではなく事業の推進主体として積極的に関与すべき
- 国は町民を説得できるようにもっと前に出てきてほしい、町長が頑張っているのとやや温度差がある
- 手挙げ方式では何年も変わらないのでは、地点の選び方を変えていくべきなのでは
- 神恵内と寿都の地域性や特徴には違いがあり、それらを考えた時にNUMOだけでなく、国ももっと情報発信を行うべき
- 地層処分事業に対しての国の思いが見えてこない
- 国がさまざまな自治体への訪問をしているものの、そのプロセスを非公開にしているため、町民からは何も見えない
- 地層処分という方法ありきで事業が進められ、国からの押し付けのように感じる
- 勉強会では国が率先して関わっていない

＜神恵内村＞

(Q2.)

- 国や道経局の関与は現在の形でよい
- 国が積極的に関与していることが村民にも伝わるとよい
- 開始時に地域住民を大事に思うなら、村、議会、国、NUMOがもっと配慮してほしい
- 国はNUMOに任せっきりでないことがよい
- 国は傍観者に見える
- 国は、地元の意見を十分に考慮すべきであり、国が率先して適地を探すべき

【⑤ その他視察等】 主なご意見

1. ご質問 項目

- Q1.見学や視察、その他活動は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。
また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。
- Q2.どんな活動やイベント、あるいは工夫があれば住民の方々が参加しやすくなるでしょうか。
- Q3.対話の場の運営について、国やNUMOに何か伝えたいことがあれば、お願いします。

<寿都町>

(Q1.)

- ・ 視察・見学で安全性について体感することができた
- ・ 視察で町が発展していくイメージを掴むことができた
- ・ 最初は怖いイメージがあったが実際には安全性の研究は思っていたのとは違った
- ・ 視察・見学の際にも批判的な有識者を同行させる方法
- ・ 視察・見学も推進、慎重の両意見の人が同行して両方の話を聞くなどの方法
- ・ 他の視察・見学の企画では地元の慎重派の住民の話を聞いて両方の意見を聞いた
- ・ 視察・見学は理解を深め、勉強しようという気にさせた
- ・ 旅行感覚ではなく視察・見学は本当に興味がある人が行くべき
- ・ 慎重な立場として視察に参加したが、視察スケジュールに対し、疑問を抱いた

<神恵内村>

(Q1.)

- ・ 神恵内は人口減少で経済が生まれないことが危機、岩宇周辺4町村で協力して進めたい
- ・ 視察・見学の際に地元の人と情報交換してみたい
- ・ 視察・見学は百聞は一見にしかずで大変な勉強の機会になった
- ・ (風評や放射線知識など) 正しい理解が得られるようにしてほしい
- ・ (多数決で議会で承認・請願できたとしても) 住民が十分納得できていない部分が残る
- ・ 紙媒体だけの情報では分からないため、実際に見学することは重要
- ・ シンポジウムで慎重派の先生が登壇されたことは驚いた
- ・ 施設見学後にざっくばらんな感想を言い合える場があるとよい

【⑤ その他視察等】 主なご意見

<寿都町>

(Q2.)

- 新たに移住した方や働く世代や子を持つ世代が参加できる場
- 興味のない人を無理に視察・見学に参加させるのは難しい
- 町内会の班単位での説明会や勉強会を実施する等、町民の要望を広く拾っていった方がよい
- 見学や視察には慎重な意見をもつ専門家も同行した方が、批判的な考えをもつ人にとってもよいのではないか
- 生配信や録画を通じて、対話の場をよりオープンにし、視聴者が自分の都合に合わせて視聴できるようになるとよい
- 対話の場を完全に公開し、その後オンラインで感想を共有できる場を提供することで、全国の人々が参加できる場になるのでは
- 対話の場と勉強会意外にも、会館単位でくつろぎながら話す機会があってもよいのでは
- 若い世代へ理解を深めるには、説明会形式ではなく、ゲーム感覚で参加できるような場があってもよいのでは

<神恵内村>

(Q2.)

- 対馬の人らがどう思っていたのか聞いてみたい
- 以前、別の活動で、参加者がグループ形式で村の将来をテーマに話し合い、その結果を大きな模造紙に切り絵で表現したことがある。その際には、参加者で食事をとり、バスで村内を移動し、子供からお年寄りまで多く参加した。NUMOでも村の将来を考える機会や、模造紙等で表現してみること、地層をバスで巡る等半日程度で行ったらどうか

【⑤ その他視察等】 主なご意見

<寿都町>

(Q3.)

- 個々には視察・見学や勉強してこれたが、町民全体への理解という点では足りなかったのではない
- 対話活動もいろいろトライしてダメだったら直していけばよいのでは
- けんかするわけではないので意見の違う人との対話の機会もあってよい
- 視察・見学に行った人が、賛否関係なく振り返りを行う場も必要
- 分断はないというが分断が起きている
- 事業者は反対の意見にも耳を傾けて、受け入れるキャパシティを持ってほしい
- 情報提供は偏っていて納得できていない
- 寿都和神恵内で、地域とNUMOとの関係に温度差がある
- NUMO職員の拠点移ったことにより、地域との関係性をもっと深めてほしい
- 全国的に問題意識をもつには、開かれた場で町民一人ひとりが話せる場を作り、そこで全体で考えることが重要
- 多様なステークホルダーで参加される場としてほしい
- 文字だけではなくて、ファシリテーショングラフィックや音声録画などを併用して場の雰囲気も伝わるようにしてほしい
- 公開討論会などの町民や町外民の場づくりへ全面的に協力してほしい

<神恵内村>

(Q3.)

- 住民がどの程度理解しているのかアンケートをとってはどうか
- 委員の意見が全てではないが、知識もなく理解も深まっていないので地域の意見をどうとりまとめるのか
- 団体の長であっても場の意見はあくまで個人であり団体を代表した意見ではないことに留意
- 毎月負担感が強い、3か月に2回程度が妥当、必要に応じて臨時に開くなど
- オブザーバーで意見の異なる有識者を呼ぶことはできないか
- メリット・デメリットの片方だけでは誤った理解を住民に与える(両方必要)
- 放射性廃棄物、放射線については誤った考えが広まっており、一人一人が正しい知識をもってほしい

【⑥ その他（寿都町の将来に向けた勉強会）】主なご意見

1. ご質問
項目

- Q1. 町の将来に向けた勉強会は、参加してどうでしたか。よかった点、もう少しこうしたいと思う点は、ありますか。
- Q2. 町の将来に向けた勉強会は、皆さんの地層処分の安全性に関する考えにどのような影響を及ぼしましたか。また地層処分事業について、理解を深めることにつながるものでしたか。

<寿都町>

(Q1.)

- 対話の場と勉強会で内容面で格差ができていたのは不満
- 福島第一の視察が実現しなかったことは残念
- 都合が悪いことは見せないという状況は信用をさらになくす原因
- 勉強会は慎重な意見の人とテーブルでお互いの話を聞いたことがよかった
- まちづくりでは同じ目線で議論ができ、お互いの意見や立場も理解できたことは称賛に値する
- 勉強会に参加して理解が深まり、人に話せるようになった
- 勉強会は知り得ないような情報、自分では調べないだろうという情報が提供された
- 賛成、反対の両専門家による対話の場を聞いてみたかった
- 対話の場同様、意見の反映の仕方や運営の在り方が公正でない

(Q2.)

- 地層処分とまちづくりは別物なので、勉強会でも分けて議論する方法もあった
- まちづくり議論とは切り離して純粋に原子力政策を勉強した方が、お金の話がちらつかなくてよいのではないか
- 安全性に関する考え方は理解できたが、絶対ではないのでいろいろな情報に接触するとわからなくなる
- 勉強会では地層処分事業について、理解を深められたが、理解が進むにつれて納得できない点が増えた